

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津川工業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年11月16日(火) 13:30~16:30
- 3 開催場所 中津川工業高等学校 仰星会館 2F研修室
- 4 参加者

会長	丸山 優	中津川市坂本11-1元区長
副会長	松井 進	中津川工業高等学校同窓会長
委員	田口 勝幸	中津川市立坂本小学校長
	田口 雅徳	中津川市立坂本中学校長
	山口公美子	坂本こども園長
	三浦 正志	中津川工業高等学校育友会長
学校側	加藤 信男	校長
	伊藤 岳明	教頭
	斉藤 良成	事務長
	藤浪 元明	教務主任
	水谷健太郎	生徒指導部長
	山田 豪	進路指導部長
	後藤 昭博	工業部長
	嶋倉 耕作	記録(教務)

5 会議の概要(協議事項等)

- (1) 校内授業・施設設備見学
- (2) 自己紹介
- (3) 学校の現状について
- (4) 学校運営協議会 会長・副会長の選出について
- (5) スクール・ポリシーについて

意見1:自分の将来や目標を持ち中学生として具体的な進路を考えることは難しいが、中学生として目標は持つ必要があると感じた。まずは、中学校で生徒を指導する教員(特に3年生担任、学年主任等)が工業高校の授業内容を理解しないといけない。本校がどんな所か理解することが必要と感じた。

意見2:今の生徒に足りないのは、プレゼンテーション能力である。自分自身の考えなどを表現する力をぜひ身につけてほしい。スクール・ポリシーのなかに「プレゼンテーション能力」をぜひ加えてほしい。

意見3:製造業は中部地域の産業の特徴である。地道にコツコツできる人材は豊富だが、集団を引っ張っていけるリーダーシップがある人物を必要としている。社会的な問題を、生徒が自分たちの知識にどのように結び付けていくか、という観点で指導してほしい。

(6) 施設開放について調査

- 意見1：小学校のグラウンドを少年野球に開放しているが、体育館については不明である。
- 意見2：土日の夜は市の管轄になり、小中学校の校長が全てを承知していない。開放していただければありがたいが、市の施設とは違うため、どのように運営するかが難しい。開放している他の学校の状況を確認してみないと分からないのではないかな。
- 意見3：地域では、もともと県立学校は使えないというイメージを持っている。小中学校の活動でもテニスコート等使用のニーズはあるのではないかな。ただ、使用した際に何かあったとき、どこに連絡をすればよいのか分からない。
- 意見4：通常であれば施設の管理は坂本コミュニティーセンターとなるが、災害など異常事態ではシステムが違ってくる。警報や鍵の管理などとても複雑となるなど、費用・防災などの観点から課題は多い。

(7) どんな生徒を育てていくか

- 意見1：近年の志望者は160名の定員に満たない状態である。公立高校全体をする生徒の絶対数が足りないので、本校に魅力がないわけでない。保護者の工業高校に対するイメージや、私立高校への選択肢などもあり、本校だけで頑張っては無理がある。小中学校の先生から、公立受検を進めていただけるとよい。
- 意見2：アンケート結果から、本校の生徒が高校生活に満足していることが理解できたが、中学生や中学生の保護者にそのことを知ってもらう必要がある。そのためにも1年生が入学後、出身中学校の旧担任や現3年担任に来校してもらい、学校を見ていただいて、それを中学校に持ち帰ってもらうとよい。本校の良さが伝わりにくいので、いろいろなPRをしてほしい。
- 意見3：本校は恵那及び中津川地域唯一の工業高校で、とても興味のある学校である。学校から外へアピールしていくことが必要。前任の中学校では、出前講座をやっていたことで2年生が本校に興味を持つことがあった。今後もっと実施してほしい。
これからは、小学校の児童と一緒にものづくりをするなどの体験をすることで、本校の魅力を知ってもらえるのではないかな。
- 意見4：確かに地域内にある私立高校は直通バスなど通学の利便性が高いが、本校は来て体験すれば、良さを分かってもらえるはずである。
- 意見5：生徒のプレゼンテーション能力が問題である。また、教職員の勤務形態の意識も改革が必要である。民間企業はいつも生きるか死ぬかと言う状態である。学校も外に目をむければ、いいものはたくさんある。学校も危機感を持って取り組むべきである。学校自身ももっと知恵を出さないといけないのではないかな。民間企業に比べると甘いと言えるのではないかな。
- 意見6：今まで本校の生徒は、保育園実習をしてきた。ものづくり・田植え等を通してすごくいい表情で体験してくれている。2年生はぎこちないが、3年生はしっかり対応してくれて、生徒にもよい経験となっている。地域の方もこの関わりを見てくれており、高校生に対し良いイメージを持ってきている。
最近は交流がなく、本校生徒が近くですれ違ったときに挨拶や手を振ってくれることが少なくなり寂しく感じる。本校と保育園の関係が切れないように早く保育園実習を復活できるとよい。また、昨年のウサギ小屋贈呈式で、本校にも女子生徒が多くいることを初めて知り、本校へのイメージが変わった。
- 意見7：地域での本校の評判は良い。体育祭などの行事がなくなると、地域と本校とのつながりが切れてしまう。地元密着型の学校であってほしい。
まちづくり協議会などで、リニア岐阜県駅を活かした都市開発をテーマに道路の整

備や町づくりなどの案を本校の生徒から出していくとよいのでは。
校則などでも、生徒主体で校則について考えたり、見直したり実施することでよりよくなるのではないか。

意見 8 : 私が入学した時の実習装置があり、伝統と歴史は感じるが、最新技術や装置等を生徒に見せて時代の最先端を進んでほしい。そうすることで生徒も自分たちの学びの先に夢を見ることができる。4尺旋盤を見ている夢はない。技術センターなどの見学をさせていただき、知恵と経験を増やしていただきたい。

6 会議のまとめ

- ・地域連携や街づくりにおいて、課題発見解決できる生徒の育成は欠かせないため、高校生のアイデア、発想、課題発見、課題解決、課題定義ができるように育てる必要がある。
- ・学校PRについて、厳しい感覚をもって取り組んでいかなければならない。自校だけのことだけでなく、地域全体の県下公立高校の問題であることを知ることができた。私立高校との問題、中学校との交流など、さまざまな課題を見つけることができた。
- ・今回の意見をもとに、更なる魅力を伝えていけるようにしていきたい。
- ・恵那中津川地域唯一の工業高校としての存続と発展を全職員で取り組んでいきたい。
- ・第3回の会議は、3年生の課題研究発表会の見学を予定している。